

第59回BCP維持管理研究会 議事録

1. 日時: 2015年11月19日(木)15:00-18:00

2. 場所: BCAO神田オフィス

3. 出席者(敬称略) 12名

小田、國貞、清水、守護、高桑、高橋、半田、平川、山下、柳谷、中谷(書記)

ゲスト参加: 矢崎

4. 内容

(1) 火山噴火の影響について概要説明 ~中谷(詳細はアジェンダ記載)

① 富士山や箱根山が噴火したらどうなるか?

- ・吹き上げられた火山灰は偏西風に乗り、関東一円に降り注ぐ
- ・首都圏の経済的打撃は2兆5000億円に上るとも言われている。建造物や交通機関は、火山灰による被害は想定していないため、被害は甚大なものになるだろう。

② 火山灰が降り注いだら どんな被害があるのだろうか?

- ・火山灰が飛行機のエンジンに悪影響を与え危険なため、フライトが出来なくなる可能性がある。
- ・鉄道も火山灰の影響で通常運行できなくなる。
- ・電信柱に降り積もり、電線が切れたり漏電したりすることで停電が起きる。
- ・浄水場などの施設に降灰することで、給水に支障がでる。
- ・精密機械の内部に火山灰が侵入すると、壊れてしまう場合がある。
- ・農作物に長期間被害が出る。
- ・目やのどを痛めてしまう可能性がある。気管支系の病気やぜんそくも悪化するかもしれない

③ 噴火する前の事前チェックと準備

- ・衣服や毛布、家庭用の常備薬(シップ、塗薬)、応急処置の医療器具、掃除機や集塵機
- ・シャベルやスコップ、バケツなど掃除用具、防塵マスク、防塵ゴーグル
- ・3日分の飲料水(1日当たり1人3~4リットル)、保存食(家族とペット)
- ・ラップや保存袋(降灰から守る)、電池式のラジオやソーラー式ラジオ、懐中電灯やLED
- ・暖房や保温できるもの、燃料
- ・現金

④ 火山灰への対応

- ・パニックは危険です。落ち着いた行動を! 屋内から外へは極力出ないこと
- ・呼吸からの侵入のため、マスクやハンカチ等で鼻と口を覆い防ぐ
- ・降灰前に警報などによる避難指示に従い行動する
- ・降灰が一旦始まったら、職場にいて無理せずに灰がおさまるまで屋内や社内に留まる
- ・噴火や除灰作業の確認
- ・コンタクトレンズやカラコンは角膜剥離を起こしてしまうので必ず外す
- ・飲料水に降灰した場合は、灰を沈殿させて透明な上澄みを使用する。
- ・火山灰で汚染された水は、飲料水として、なるべく使用しない
- ・降灰の降りかかった野菜を食べるときはまず大量の水でよく洗う

(2) 火山噴火に対応する演習(DIG)

ファシリテータ:高橋さん アシスタント:中谷

噴火予兆から降灰までの事前準備、及び降灰時の事業継続対応について、シナリオに基づきグループディスカッションを行った。(噴火予兆)(噴火)(降灰:工場、及び本社)の3段階に分けて、事業継続の観点から演習を行った。

各グループで、トップ方針に対する対応策を各々検討し発表して頂いた。

<感想>

①シナリオ

- ・今までは、地震中心の訓練であったので、知識面・考え方などが、新鮮で非常に勉強になった。
- ・気象状況により、大きく変化するので、被害想定や被害範囲のイメージが難しかった。
- ・噴火想定シナリオは新鮮であり、事業継続の観点で様々な代替案が検討でき良かった。
- ・普段接す機会の少ないシナリオで想像することが難しかったが、基本的な考えは同じである。
- ・シナリオに対する地理感がないため、対策検討に苦慮した。
- ・長期化する災害に対するイメージが作れた。
- ・付与条件もよく検討されており、被害をイメージすることが出来た。

②グループディスカッション

- ・熟練者に引っ張られる所も大きいですが、各々が意見を出せる訓練は有効である。
- ・熟練者が最初のトリガーを担ってくれたので、スムーズに進めることができた。
- ・噴火想定イメージが定まらなかったため、被害洗い出しが難しかった。
- ・グループの中で多種多様な意見が出て、大変参考になった。
- ・噴火経験がないので、各々のイメージで異なっており、纏めるのが大変であった。
- ・ホワイトボードが活用でき、グループでの情報共有・整理ができた。
- ・シナリオが良く作り込まれており、違和感なく訓練の世界に入ることができた。

③総括

- ・想定エリアなどが、もう少し明確になると良いが、多岐に渡り検討でき良かった。
- ・火山噴火シナリオは初めてだったので、準備が大変であったと思います。
- ・グループ内で被害認識にズレが生じたので、統一できれば完璧であったと思います。
- ・今まで想定した訓練をしていなかったが、現実起こりうる可能性も高いので、自社内でも訓練を計画していきたい。

5. 次回開催

12月17日 場所検討中

演習の考え方、評価方法について

以上